

盛岡市玉山区の淡水魚を調査

岩手県立大学研修(フィールドワーク) 平成27年9月26日(土)

「SSH岩手県立大学研修(フィールドワーク)」が9月26日に生徒12名の参加で行われました。野外実習がメインの研修で、生徒が調査に生き生きと取り組む様子が見られました。

「田んぼ周りに生息する魚類の生態とその保全」

総合政策学部 助教 鈴木正貴 先生

背景、目的、方法、結果、考察といった論文の骨格について説明を受けた後、実際に「調査」「データ整理」「考察」といったフィールド研究の基本を学んだ。まず、盛岡市玉山区にある水田地帯を流れる農業水路を対象に、生息魚類の採捕を行った。実地調査のための手続きや採捕方法、努力量を一定にすることの必要性などを学び、それぞれ胴長を身につけ4か所に分かれ採捕した。採捕した生息種の同定や、個体の体長組成などを調べた。大学に戻り、調査したデータを整理し、総数、平均値、最大・最小などを求め、ヒストグラムにまとめた。データを元に、種や個体数の違いを調査区の特徴とともに考察した。最後にタナゴについて生態を学び、農村の置かれている現状を踏まえて、これら魚類の保全策を考えた。

採捕した個体



農業水路の調査区の一つ



タモを用いた生息動物の採捕



採捕した個体の同定と体長測定